

# わたしのまちのPR

ピーアール

## 河南町編



河南町は、大阪府の南東部に位置し、北は太子町、西は富田林市、南は千早赤阪村にそれぞれ接しており、金剛、葛城の山並みに生まれた豊かな自然に恵まれた町です。

町域の山地部は金剛生駒紀泉国定公園に指定されています。また、古くから開けたこの地には、古墳や遺跡など数多くの文化財があります。

この自然と歴史に恵まれた緑豊かな河南町の魅力や特色について、総務部副理事兼人事広報課長の炭谷さんと企画財政課長の森田さんにお話をお伺いしてきました。



本日はどうぞよろしくお願ひします。

早速ですが、河南町の歴史について教えてもらえませんか。

よろしくお願ひします。

河南町の歴史は古く、約1万年前の縄文時代早期に、人々が住み始めています。弥生時代の後期になると、町北部・西部の丘陵上に集落が築かれるようになりました。

古墳時代の集落の様子はあまり明らかになっていませんが、古墳時代前期（4世紀）になると、弥生時代後期の集落があった丘陵上に古墳が築かれ始めました。古墳時代の後期（6世紀）になると、町北部から太子町にかけての丘陵上にも古墳群が築かれます。これが、わが国の代表的な群集墳である総数約250基からなる「一須賀古墳群」です。

この頃、河南町を含む一帯は、難波宮と大和を結ぶ日本最古の官道である竹内街道沿いであって、大和の飛鳥が「遠つ飛鳥」と呼ばれたのに対して、難

波宮に近くにある飛鳥として「近つ飛鳥」と呼ばれるようになりました。この時代は、蘇我氏や渡来人との関わりが深く、国際色豊かな文化圏を形成していました。「近つ飛鳥」という地名は、「古事記」に登場します。

7世紀末には、役行者が修験道の礎を築き、平安時代末期の歌人西行法師が永眠する弘川寺や高貴寺が開かれました。

南北朝時代に起こった戦乱が鎮まった中世末には、念仏宗の寺院を中心に「寺内町大ヶ塚」が形成され、次第に市場町へと変貌していきました。その後、用水池の構築や用水路の改修に努めた結果、現在も町の主要な産業となっている農業の生産基盤を築いてきました。

そして、石川村、白木村、河内村、中村が合併して、昭和31年9月30日に人口約9,000人の河南町としてスタートしました。

昭和32年から新町5か年計画建設事業に着手し、新しいまちづくりに努め、大宝住宅団地、さくら坂住宅団地などの開発により、人口約17,000人のまちへと変貌してきました。

豊かな歴史的風土に囲まれているんですね。

お話にありました「近つ飛鳥」の名前を冠した博物館と公園があるそうですね。

はい。町内には、「近つ飛鳥博物館」と「近つ飛鳥風土記の丘」があります。

「近つ飛鳥博物館」は、大阪府立史跡公園「近つ飛鳥風土記の丘」の園内にあります。この博物館は、「日本古代国家の形成過程と国際交流をさぐる」をメインテーマとして、古墳時代から飛鳥時代の文化遺産を中心に様々な展示がなされています。建物の

屋上が階段状になっており、野外コンサートなども開かれ、全国から多くの人を訪れています。

館内には、本町にある「金山古墳」の家形石棺の実物大模型や日本最大の仁徳陵古墳の復元模型のほか、古墳時代に重量物の運搬に利用された大修羅の実物と小修羅のレプリカが展示されています。特に大修羅は、長さ8.8m、重さ約3.2tもあります。

「近つ飛鳥風土記の丘」は、先ほどお話ししました一須賀古墳群を保存、整備した公園です。博物館から古墳群へ向かう道は梅林となっており、花の季節にはきれいな薄紅色の花が芳香を漂わせます。

29haの園内には102基の直径15m前後の円墳、一部方墳があり、そのうち40基を整備し見学できるようにしています。

また、園内にある展望台からは、「近つ飛鳥」一帯や古市古墳群、遠くは大阪市内や六甲の山並み、淡路島などが望めます。

歴史的な文化財が豊富ですね。

弘川寺のお話がありました。これについて詳しく教えてもらえませんか。

弘川寺は、修験道の祖である役行者が創建したといわれています。役行者の自作といわれる薬師如来像を本尊としており、行基や空海もここで修行したと伝えられています。

また、西行法師終焉の地としても有名です。

“願はくは 花の下にて 春死なむ  
そのきさらぎの 望月のころ”



大阪府立  
近つ飛鳥博物館



弘川寺

と、自ら詠んだ歌のとおり、この弘川寺で入滅しました。境内には西行記念館があり、西行直筆といわれる掛け軸をはじめ、西行法師にまつわる数多くの資料が展示されています。境内には、西行堂や西行塚など西行法師にゆかりのある史跡のほか、樹齢350年余りの「海棠」(府指定天然記念物)があり、毎年春に美しい花を咲かせます。

周辺の森林は「弘川寺歴史と文化の森」と名付けられた里山となっており、桜や紅葉など四季折々の自然を楽しめる遊歩道が整備されています。

その他のおすすめの名所、旧跡を教えてください。

町南西部にある「金山古墳」は国史跡に指定されており、墳丘長約86m、周囲にめぐらされた堀を含んだ総長は約104mで、全国的にも珍しい円墳2つを引っ付けたような瓢形双円墳として日本最大の規模を誇っています。

金山古墳



金山古墳の北丘には、横穴式石室の玄室と羨道せんどうに2基のくり抜き式家形石棺が置かれています。残念ながら、石室や石棺の中はすでに盗掘されており、わずかな副葬品が出土しただけですが、南丘にも横穴式石室の存在が確認されています。こちらは未調査のままとなっており、何が出土するか想像するだけでもワクワクしてきます。

金山古墳は、憩いの場として、また、歴史の体験学習ができる史跡公園として整備されており、悠久の時に思いを馳せてみるのもいいのではないのでしょうか。

このほかにも様々な名所・旧跡があります。「河南町自然と歴史の散歩道案内マップ」には町内の観光スポットを紹介していますので、当町にお越しの際は参考にさせていただけたらと思います。

これまで培ってきた歴史・文化に併せて、河南町の新たな文化の発信拠点となっている大阪芸術大学について教えてもらえませんか。

大阪芸術大学は、昭和39年に浪速芸術大学として町北部に開校されました。大学には、芸術学部14学科と大学院もあり、美術、音楽、メディアなどで芸術家の卵たちが、創作活動などに励んでいます。有名人も多く輩出し、多種多様な分野で幅広く活躍されています。周辺一帯は、学生マンションなどが建ち並び、学生など若い人を対象にした飲食店が多く存在するなど、大学とともに発展してきたともいえます。

町では、大学との交流を推進しており、各種教室やコンサートなどを行い、住民の文化・芸術活動の支援を行っています。また、地域の小学校などとの交流事業も行っており、大学との連携を通じて、活気のあるまちづくりを進めています。

なるほど。活気があるといえば、道の駅「かなん」が人気を博していますね。

平成16年にオープンした道の駅「かなん」は、国道309号沿いにあり、大阪市内からも近いところにあります。地元産品の販売をはじめ、なにわ伝統野菜の復活にも力を入れ、勝間南瓜や毛馬胡瓜なども販売しています。毎週土・日曜日と祝日には「ふれあい朝市」が開催されており、大変多くの来場者で賑わっています。



道の駅「かなん」

道の駅「かなん」位置図



大学との連携や、地元産品のPRなど、町の魅力・特色を生かしたまちづくりに努められていますね。

まちづくりにあたっての方針や取組などを教えてもらえませんか。

本町では、政策の柱として「改革と創造」を掲げ、住民の視点に立った町政運営を進めています。

改革は、「倫理」と「行財政改革」の2点から成り立っています。

まず、職員の倫理についてです。職員としての倫理を定めた職員倫理条例により、職員の倫理確立に努めています。特に近年は、公務員のコンプライアンスが大きな社会問題となっています。当町では、法令遵守の徹底に取り組み、全職員が、公平・公正・公明で「自分に厳しく人に優しい役場」づくりを目指し、日夜努力しています。

次に行財政改革ですが、「入るを計りて出ざるを制す」の原則に立ち、身の丈に合った行財政運営を行っていくべきであると考えています。

急速な少子高齢化の進展、地方分権の推進など、増大する行政需要に対応していくために、行財政改革を一層推進しなければなりません。そのため、住民代表で組織した「河南町行財政改革推進委員会」（平成18年設置）の議論・答申を踏まえながら、より一層効率的な町政運営を進めていきます。

もう一つの柱である創造についてですが、これは、安全・安心・安住をはじめとする6つのまちづくりへの取組（※次頁参照）から成り立っています。先人によって培われた歴史・文化、緑と水というわが町の財産を守り、子どもたちの夢が育まれるまちづくりを目指すことを基本としています。また、住民参加のまちづくりが今後欠かすことができないものであり、地域住民の協力、参加によるまちづくりを進めていきます。

住民の目線にたったまちづくりを進めているのですね。

最後になりますが、今後の抱負などについて教えていただけますか。

安全で安心して住み続けられるようなまちづくり



を目指すとともに、グローバルな視点に立ち、世界へ向け大阪芸術大学などの文化資源を活かした情報発信を行っていかねばならないと考えています。そのためには、交通の利便性の向上が何よりもまして、重要なものとなります。大都市大阪のベッドタウンとして、また、新鮮な農産物の供給基地として発展するために、大阪市内や空港などへの自動車交通によるアクセスの向上を図っていきます。

そして、情報の発信できる魅力あるまちとなり、未来に夢が持てるまち、安全・安心・安住の地「かなん」を目指し頑張っていきます。

安全・安心・安住のまちの実現に一層の躍進をされることを期待しております。

本日は、お忙しい中、ありがとうございました。

## 6つのまちづくりの取組

### 安全なまち

地域ぐるみ、住民の自主的な活動による安全対策に重点を置いた施策。

- ・地域防犯ボランティア団体の育成
- ・地域での青色回転灯防犯パトロール支援策
- ・小中学校の校舎の耐震化
- ・交差点改良などの交通安全対策の充実
- ・防災マップの全戸配布 など

青色回転灯防犯パトロール



### 安心なまち

国の宝である子どもを安心して育てることができるまちを目指した施策。

- ・子育て支援センターでの子育て施策の充実
- ・保育所の延長保育 など

### 安住のまち

高齢者が元気で生き生きと暮らせるまちづくりとして、住民健診による健康づくりのほか、社会福祉協議会とも連携した高齢者のサポート体制など。

※これら3つのまちづくりを『3A（安全・安心・安住）まちづくりプロジェクト』として、「頑張る地方応援プログラム」に位置づけています。

### 教育のまち

子どもたちの読書への関心、基礎体力づくりのための施策の充実を図り、スポーツや文化活動を体験できる教室の実施など、子どもたちの体力向上と活気あふれる学校づくり。 子どもたちの体力づくり

- ・蔵書充実(小学校の図書室、中央公民館図書室)
- ・子どものたくましい体力づくり
- ・スポーツや文化活動を体験できる教室 など



夕涼みフェスティバル

### 生き生きとしたまち

農地の保全に努めつつ、新たな農業の発展策を講じるとともに、道の駅「かなん」で販売する地元産品の開発などを支援しています。また、商工会など関係団体が行う夕涼みフェスティバルなどを通じた商工業の振興。

- ・子どもたちの体験学習の場「ふれあい農園」
- ・農産物展示品評会
- ・小規模企業事業融資の信用保証料の補給 など



### 水と緑の美しいまち

豊かな自然と歴史を活用したまちづくりを進める一方、桜の花や田園風景、身近にふれあえる里山の保全、地球規模での環境問題への取組。

- ・出生記念樹の配布などの緑化対策
- ・「自然と歴史の散歩道」の整備
- ・エコアクション 21（環境経営システム）の認証・登録 など